

## 東邦大学医療センター佐倉病院臨床研修プログラム

### 佐倉・選択専攻科目

### 形成外科（4週以上）

#### 1 研修プログラムの目的と特徴

目的：臨床研修に総合診療方式を導入することにより、全人的医療を実践できる医師としての基礎知識・手技を取得することを目的とする。

特徴：研修医が選択臨床研修を行い、将来の専門性にとらわれることなく、全人的医療を視野においた基本的な診療能力を修得することを特徴とする。

#### 2 プログラム管理運営体制

本プログラムは、東邦大学形成外科学講座教授（委員長）およびスタッフにより構成される委員会により管理、運営される。内容に問題を生じた場合は、必要に応じ、随時会合、協議の上、修正や変更を行う。

#### 3 教育プログラム

##### 3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は4週以上である。

東邦大学医療センター佐倉病院形成外科に配置され、外来・病棟業務を行う。

研修は、大森・大橋・佐倉病院合同で行う。症例や希望などにより、大森・大橋病院および初期研修協力病院での出張研修を行うことが出来る。

##### 3-2 一般目標（GIO）

形成外科的で扱う疾患を有する患者の身体、心理、精神的な問題点を認識し、治療を行うために、外科治療学に関連した基礎的知識を学び、その基本的なプロセスを修得する。

##### 3-3-1 行動目標（SBOs）

- 1) 形成外科の基本的な知識と技術を習得する。
- 2) 形成外科で取り扱う疾患を理解する。
- 3) 形成外科一般検査の意義を理解する。
- 4) 各種放射線検査の意義と適応を理解する。

##### 3-3-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 形成外科一般検査の意義を理解し、実施および結果の判定ができる。
- 2) 各種放射線検査の意義と適応を理解し、結果の判定ができる。
- 3) 創傷の治療に対し、適切な処置、処理手技を習得する。
- 4) 形成外科に関連する診療科の知識の習得に務め、チーム医療のできる医師としての研修に務める。

### 3-3-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 身体各種の先天異常
- 2) 口唇口蓋裂
- 3) 創傷治癒過程
- 4) ケロイド・肥厚性瘢痕
- 5) 外傷・熱傷患者の救急処置
- 6) 汚染創・感染創
- 7) 熱傷の深度・範囲の判定
- 8) 中等度の熱傷の全身管理と局所処置
- 9) 熱傷後遺症
- 10) 顔面外傷およびその合併損傷
- 11) 顔面骨骨折
- 12) 皮膚良性・悪性腫瘍
- 13) 母斑・血管腫・色素性疾患

### 3-3-2-C 特定医療現場の経験

外傷、熱傷例に対し、迅速かつ確な処置を行うことができ、特殊例では、臨床研修指導医のもとに治療にあたることができる。

### 3-4-1 学習方略（LS）

#### 1) 病棟業務

病棟責任者および病棟チーフについて研修を行う。病棟チーフのもとで入院患者を受け持ち、全身管理・処置・検査などにつき指導を受ける。入院患者が救命救急センターおよび NICU 等に収容された場合には、臨床研修指導医のもとに担当医と協力し治療にあたる。手術症例では助手として参加し、形成外科的基本手技を学ぶとともに術前・術後管理を学ぶ。

#### 2) 外来業務

外来責任者および外来担当医師について研修を行う。外来診察・処置を通じ、形成外科的基本診察手技を学ぶ。外来手術に助手として参加し、形成外科的基本手技を学ぶ。

#### 3) カンファレンス・勉強会

- ・術前、術後カンファレンス（毎週火曜日 15:00～）

→手術予定症例の提示を行い、術式、術後管理・ケアなどにつき検討を行う。

術後症例に関しては行われた手術の術式詳細および術後の状態を提示し検討を行う。

- ・抄読会（不定期 1回/月）

→受け持ち症例の術式などに関して、必要な海外文献の要約を発表する。

- ・院外症例検討（不定期 1回/3ヶ月）

→医療センター3病院および、関連病院での症例を持ち寄り、術式などの検討を行う。

### 3-4-2 週間スケジュール

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
8:00～	外来実習	手術実習	手術実習	外来実習	外来実習	病棟実習
13:00～	外来手術実習	手術実習	手術実習	外来実習	病棟実習	
14:00～	外来手術実習	病棟実習	手術実習	外来手術実習	外来手術実習	
15:00～	縫合実習	カンファレンス	手術実習	外来手術実習	病棟実習	

### 3-5 評価 (E V)

到達目標ならびにチェックリスト各項目について達成の有無を自己評価する。  
臨床研修指導医はその達成を援助する。(添付チェックリスト参照)

### 3-6-1 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は、基幹病院である東邦大学医療センター大森病院形成外科の指導責任者にある。研修医は診療チームに配属され、臨床研修指導医の下でチームの一員として指導を受ける。

### 3-6-2 臨床研修指導医

臨床研修指導医責任者 林 明照  
臨床研修指導医 平田 晶子

### 3-6-3 協力施設

公益財団法人星総合病院 : 〒963-8501 福島県郡山市向河原町 159 番 1 号

### 形成外科選択研修チェックリスト

4～12週以上型研修修了までに下記事項が期待される。(○印)  
さらに16～36週以上型研修修了までは、さらに◎印の事項が期待される。

#### 一般知識と診察・診断・治療:

- 患者と良好なコミュニケーションがとれ適切な診察ができ、必要な検査を選択しその結果を判定できる。
- 鑑別診断ができる。
- 入院患者の管理ができる。
- 形成外科で取り扱う疾患の概要を理解している。
- 創傷治癒過程を理解している。
- ケロイド・肥厚性瘢痕の診断ができ保存的治療ができる。
- 外傷・熱傷患者の救急処置ができる。

- 汚染創・感染創の取扱いができる。
- 熱傷の深度・範囲の判定ができる。
- 中等度の熱傷の全身管理と局所処置ができる。
- 熱傷後遺症を理解している。
- 顔面外傷およびその合併損傷を理解している。
- 顔面骨骨折の症状を理解し、必要な検査を指示でき判読できる。
- 眼瞼・外鼻・口唇・耳介の解剖学的特徴を理解している。
- 手の機能解剖を理解している。
- 代表的な皮膚良性・悪性腫瘍の診断ができ、治療法を選択できる。
- 母斑・血管腫の診断ができ、治療法を選択できる。
- 植皮の分類ができ、それぞれの特徴を理解している。
- 植皮の使用目的を理解し、適切な植皮法が選択できる。
- 植皮片生着のための条件を理解している。
- 各種採皮法を理解している。
- 皮弁の定義を理解している。
- 皮弁の分類ができ、それぞれの特徴を理解している。
- 代表的な皮弁が言え、その適応と利点・欠点が言える。
- Z形成術の定義・理論を理解している。
- 各種皮弁の使用目的を理解し、適切な皮弁が選択できる。
- 皮弁生着のための条件を理解している。

#### 形成外科基本手技・手術手技：

- 形成外科で用いる器具を理解し、その操作が正しくできる。
- 正しいメスの使用法による皮膚切開ができる。
- 皮下剥離ができる。
- 確実な止血ができる。
- 適切な手術器具・縫合材料を選択できる。
- 創の愛護的な取扱いができる。
- 真皮縫合ができる。
- debridement ができる。
- 適切な dressing 法の選択・実施ができる。
- 治癒過程の良否が適切に判定できる。
- 抜糸時期を理解し、正しい抜糸ができる。
- 抜糸後の創処置ができる。
- 手術患者の術前・術後管理ができる。
- 手術の助手ができる。
- ◎皮膚腫瘍の切除など簡単な手術ができる。
- ◎採皮および植皮ができる。
- ◎Z形成術が応用できる。
- ◎顎間固定ができる。

◎鼻骨骨折の非観血的整復固定術ができる。